環境省
Ministry of the Environment

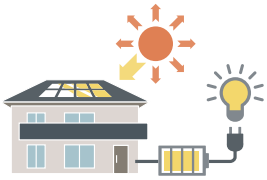
駐車場を活用した ソーラーカーポートの 導入について

自家消費型の太陽光発電設備導入のメリット

CO_2排出量の削減による地球環境への貢献

電力会社に支払う電気料金の削減
（電気料金上昇リスクの低減）

災害時などの停電時でも、電気が使用可能

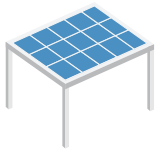


企業の場合、国際イニシアティブ「RE100」への活用が可能
（ESG投資を呼び込む効果も期待）

屋根を活用した太陽光発電だけでは十分な再エネ電力を得られない場合がありますが、
駐車場を活用した **ソーラーカーポート** を導入することで、
再エネの活用を一層進めることが可能です。

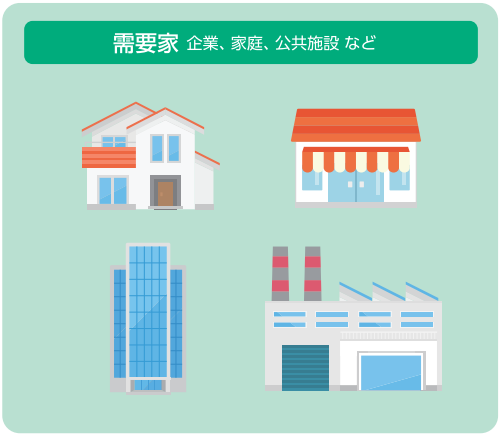
ソーラーカーポートとは

- 「ソーラーカーポート」とは、カーポートの屋根として太陽光発電パネルを用いるもの（太陽光発電一体型カーポート）、または、カーポートの屋根上に太陽光発電パネルを設置するもの（太陽光発電搭載型カーポート）を指します。
- カーポートを設置することで、駐車場の駐車スペースを確保したまま、駐車場の上部空間を利用した太陽光発電を実現できます。



太陽光発電一体型カーポート

太陽光発電搭載型カーポート



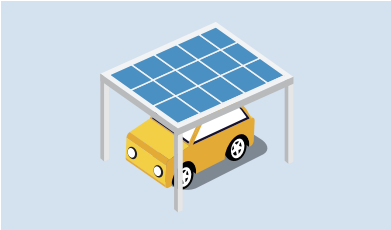
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
Re-Style
デコ活 くらしの中のエコろがけ
つなげよう、支えよう 森里川海
Plastics Smart
脱炭素ポータル

ソーラーカーポートのメリットと注意点

ソーラーカーポートのメリット

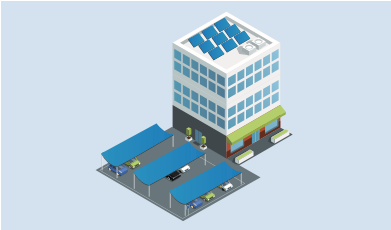
土地の有効活用

駐車場の上部空間を有効利用できます。また、顧客や社員等の車の日よけにもなるほか、施設での再エネ導入の取組が目に付きやすい形でPRできます。



再エネ自給率の更なる向上

屋根に加え、駐車場にも太陽光発電を導入することで、施設の再エネ自給率を更に向上できます。また、敷地内全体でのZEB/PEB※の実現にも貢献します。



防災性の向上

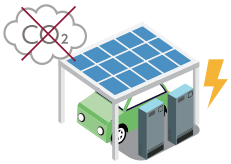
敷地内で自家消費するため、災害時等に地域で停電が発生した場合でも一定の電気を使用することが可能になります。

※ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）は、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物のこと。
PEB（ポジティブ・エネルギー・ビル）は、年間の一次エネルギー消費量を上回る発電を行うことを目指した建築物のこと。

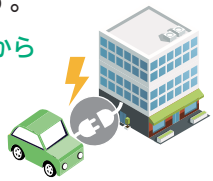
＋ 電気自動車（EV）等との連携

カーボンニュートラル実現に向けて、自動車の電動化が推進されており、電気自動車（EV）等が急速に普及しています。
今後、EV とソーラーカーポートを連携させることで、上記に加えて更なるメリットが期待できます。

ソーラーカーポートで発電した再エネ電気で EV を充電することができます。通常の電気に比べ CO_2 排出量が削減できます。



また、V2H 機器を介すことで EV から施設等へ電力が供給できるほか、災害時（停電等）には非常用電源としての機能も期待できます。



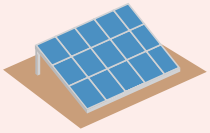
注意点

ソーラーカーポートは、建築基準法上の「建築物」に該当するため、建築基準法に則った設計・施工・監理が必要です。建築物に該当しないものとされている土地に自立して設置する太陽光発電設備とは、運用が異なりますのでご注意ください。※

※「太陽光発電設備等に係る建築基準法の取扱いについて」
（国土交通省：平成 23 年 3 月 25 日）より

建築基準法の対象
ソーラーカーポート

建築基準法の対象外
野立て太陽光発電設備



ソーラーカーポートの導入事例

事業者名	みずほリース株式会社：設備保有者 出光興産株式会社：PPA 事業者
所在地	宮崎県
施設名	国立大学法人宮崎大学（2 キャンパス）
発電容量	太陽光パネル出力：3,828kW
	パワコン出力：3,160kW
設置タイプ	太陽光発電一体型（駐車場 1,592 台分）
電力の用途	キャンパス内建物にて自家消費

※本事例の詳細及びその他の事例は環境省「太陽光発電の導入支援サイト」（https://www.env.go.jp/earth/post_93.html）をご覧ください。